芝浦工業大学 SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

2025年度グローバルPBL（派遣）実施報告

持続可能な土木工学のためのAI活用に関するワークショップ

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2025年08月18日 ～2025年08月27日	タイ	カセサート大学 アジアエ科大学	・土木工学科、都市・環境コース、社会基盤学専攻、環境システム学科、建築学科 ・学部1年生、学部2年生、学部3年生、学部4年生、修士1年生、修士2年生、博士1年生、博士2年生、博士3年生	（芝浦工業大学） 学生42名、学生バイト8名、教員1名 （カセサート大学） 学生70名、教員6名、 職員4名 （アジアエ科大学） 学生60名	稲積　真哉(土木工学課程都市・環境コース)

図1 カセサート大学（バンコクメインキャンパス）での集合写真

2025年8月18日から27日にかけて、カセサート大学バンコクキャンパス、カセサート大学シラチャキャンパス、アジアエ科大学院大学（AIT）、そしてパタヤにおいて、「AI Power for Sustainable Engineering（持続可能な工学のためのAI活用）」をテーマとするグローバルPBLが開催された。本学（SIT）からは土木工学科を中心に50名の学部生・大学院生が参加し、カセサート大学（バンコクおよびシラチャ両キャンパス）からはおよそ70名、さらにアジアエ科大学院大学からも参加者を得て、総勢約118名の学生・院生による国際的な教育実践の場となった。

プログラム前半のバンコク滞在では、午前中に特別講演やAITにおけるラボツアーなどの全体イベントが行われ、午後は9つの混成グループに分かれてのグループワークが進められた。特別講演では、カセサート大学のAssoc. Prof. Dr. Suttisak Soralump による「バンコクの軟弱地盤における地震動増幅の影響」に関する講演をはじめ、AITのDr. Chutiporn Anutariyaによる「From Blueprints to Algorithms: How AI is Transforming Civil Engineering」、さらに企業の技術者による「機械学習を用いたダム安全管理」など、AIと社会基盤工学の最前線に触れる機会が提供された。

後半にはシラチャキャンパスでの宿泊研修が行われ、工学部の学生・教員による講義やキャンパスツアー、学生チャレンジが催され、夜にはパタヤでの交流も加わった。

グループ活動においては、AI技術をどのように持続可能な社会基盤整備に応用できるかをテーマに、地盤工学、構造工学、水工学、防災など幅広い分野を対象とした討議が進められた。最終発表会では、SIT、KU、KU-SRC、AITの学生たちが協働してまとめた成果が披露され、AIの活用が持続可能な未来を築く上で土木工学にどのような貢献を果たすべきかという視点が明確に示された。

今回のグローバルPBLは、異なる国・大学から集まった学生たちが互いに協力し議論を深め合う中で、学生の技術的知識を深めただけでなく、分野を越えて協働する能力も高めました。また、工学分野における世界的な課題に取り組むために必要な国際的な視野と実践的なスキルを養う、学生にとって貴重な機会となりました。

図2 グループ活動の様子

図3 アジアエ科大学院での集合写真

図4 カセサート大学（シラチャキャンパス）での集合写真

図5 最終発表会の様子 (1)

図6 最終発表会の様子 (2)

図7 最終発表会の様子 (3)

画像などコンテンツの無断転載を禁じます。